

ロシアのウクライナ侵略が続くなかで、2022年が終わるといつてあります。ロシア軍は、各地のエネルギー関連施設を「サイルで破壊し、巣営地に市民から医療や照明を奪う攻撃を強めています。一方、政権は新鋭兵器の配備や兵站の強化で新たな攻勢に出る構えです。ウクライナ、ロシア両国民の犠牲を増やし、自國を破滅に導く」としかなりません。大義のない侵略戦争は厭がれています。

国際社会の総意は明らか

ロシア政府は、想入降、30万人もの予備役を動員しましたが、国民の強い反対や逃避に直面しました。21日に開かれた国防省の会議で、アーチン大統領は、兵士の服

主張

装、食料、医療キットまでが回りで問題がありましたと認めたべきで、不十分なまま戦場に送られ、人肉糧食を増やす必要があります。

この席で大統領は、新型の大陸間導弾「サイルを近く実戦配備する」として、交渉の対象としない

立場を示していました。外交的解決の道を辿らなければなりません。

決の道を辿らなければなりません。

国連憲章にもどづく解決へ

載した新フリゲート艦が一月に就役するなど、軍事力強化を発表しました。徴兵の対象年齢を段階的に引き上げる措置も明らかになりました。

翌22日の記者会見でアーチン大統領は、「どんな武力紛争も何らかた。外交交渉によりて終わる」と述べました。

併合は、10月12日採択された「国連憲章の諸原則」(ウクライナの主権と領土保全の尊重)を大前提に「緊張緩和や、政

治的対話、交渉、調停などを通じて撤回を認められています。決議を支持する「EU」を首領政府、欧洲安全保障協力機構(OSCE)、

10月の総会決議は、「国連憲章の諸原則」(ウクライナの主権と領土保全の尊重)

が、ウクライナが交渉を拒んでいたこと難しました。

しかし一方的に併合を宣誓したことは、世界が賛成しており、国際社会の総意となっています。ロシアは、米国が主導する特定の価値観によって世界に分断を持ち込む議が要求した「即時、完全、無条件」の撤退、併合首領の撤回が不可欠です。

これが、ウクライナが交渉を拒んでいたこと難しました。しかし一方的に併合を宣誓したことは、世界が賛成しており、国際社会の総意となっています。ロシアは、米国が主導する特定の価値観によって世界に分断を持ち込む議が要求した「即時、完全、無条件」の撤退、併合首領の撤回が不可欠です。

危険な軍事的対決の道

米国のバイデン政権が主張する「匡扶抗敵対專制主義」の構図は、米国が主導する特定の価値観によって世界に分断を持ち込む議が要求した「即時、完全、無条件」の撤退、併合首領の撤回が不可欠です。

これが、ウクライナが交渉を拒んでいたこと難しました。しかし一方的に併合を宣誓したことは、世界が賛成しており、国際社会の総意となっています。ロシアは、米国が主導する特定の価値観によって世界に分断を持ち込む議が要求した「即時、完全、無条件」の撤退、併合首領の撤回が不可欠です。

これが、ウクライナが交渉を拒んでいたこと難しました。しかし一方的に併合を宣誓したことは、世界が賛成しており、国際社会の総意となっています。ロシアは、米国が主導する特定の価値観によって世界に分断を持ち込む議が要求した「即時、完全、無条件」の撤退、併合首領の撤回が不可欠です。